

ふじやまだより

発 行 者

富士市立ふじやま学園

代表 園長 清 峰和

富士市大淵 2 1 0 6 - 3

T E L 0545-35-0313

F A X 0545-35-0243

✧ そばにいるよ ✧

誰かと常につながっていたいA子ちゃんは、ふじやま学園でも学校でも大人の傍に来て甘えてきます。

A子ちゃんは小さい時から施設で生活をしていて、生活スキルの獲得も早く、自分より小さい子の面倒もよく見てくれるやさしいお子さんです。

学校から帰園し宿題をやるうとしていたため傍で見守っていると、問題を見ないうちに「わからない、教えて～」と苦手なことから逃げているので、「A子ちゃんならできるよ、がんばってごらん」と伝えると「もう～いい～」と宿題を止めて他の職員のところへ甘えて行き戻ってきませんでした。

A子ちゃんにとっては、自分一人ではできないことを、大人と一緒にやり、手伝ってもらうことでできた、そんな体験が必要だったのかもしれませんが、つい私たち大人は子どもに苦手なことから逃げずに頑張ってもらいたい大人側の思いが強くなってしまいがちです。子どもは自分でできることでさえ助けてもらうような体験を通して、自分自身に「支えてくれる大人、対話できる他者」をみつけることができるのでしょう。

別日に、A子ちゃんが私のところに何度も読んだことのある絵本を持って「えほんよんで」と来たので読み聞かせをしていると、数名の子達もそばに来て聞いていました。途中、私が来電で席を立つと、A子ちゃんが「代わりに読んであげる！」と周りにいた子達に向かって上手に読み聞かせを始めてくれました。戻った私も一緒になってA子ちゃんの読み聞かせに参加させてもらおうと、読み終えたA子ちゃんが、「この本、ボロボロだから今度新しいの（本）買って。」と、にっこり笑いながら大事そうに絵本を抱えていました。私も前回のA子ちゃんとのやり取りがあったばかりだったので、（今度は上手くいった！）と嬉しく思いました。

その日の夜、A子ちゃんは別の職員を呼び、居室で5分程おしゃべりをしてから消灯時間を迎えました。なかなか話が切れないようではありましたが10分過ぎたところで穏やかに「おやすみ」と消灯できました。

A子ちゃんにとって、「自分だけの職員さん」や「苦手なことをわかってくれる先生、話を聞いてくれる先生」がいてくれる安心感があることが心地よいのかもしれませんが。また「してもらった経験」があり、嬉しかったからこそ自分より小さい子に優しく接してくれているのかもしれません。

ふじやま学園の生活で活動を共にすることで、子ども達と気付かなかったことを一緒に発見したり、笑ったり、楽しんだり、悔やんだり、「一緒にした経験やしてもらった経験」から、一緒にやってくれた心地よい安心できる人、安心できる場所を多く経験させてあげたいと思います。

指導主任 三宅 千津



子ども達の頑張りを紹介します！



ふじやま学園で生活している子ども達は、一人ひとり得意なこと・苦手なことは様々です。そんな中、次のステップを見据えながら、本人にとっての自立した生活を目指して、できることを増やしていけるよう努力しています。そして、子ども達の頑張りにこたえるべく、職員も一緒に様々なプログラムを組み、きめ細かい支援を実施しています。

将来を見据えた外出訓練

ふじやま学園では、児童が地域で自立した生活を送るために、必要な知識・技術を学ぶ自活訓練事業をおこなっています。

その事業の一環として、S君は休日一人でバスや電車に乗り、好きな温泉に出かけたり、日用品の買い物をしたりしています。

ふじやま学園に来るまで一人で電車やバスに乗ったことがなかったS君。最初は職員が一緒に行き、乗り方を教えてもらっていました。初めて一人でバスに乗った際には療育手帳を忘れるトラブルもあったようですが、手持ちのお金を両替し、焦らずに対処できたとのこと。今は市外まで行くこともあります。

「希望している卒業後の進路だと、バスとか電車が移動手段だから、将来のことを考えてこれからも頑張って使っていきたい」と話してくれました。



時計や靴が大好きなS君が一人で外出し購入したお気に入りのコンバースの靴。

徒歩登下校での体力づくり



H君は疾病があるため、食事制限や体重管理が必要です。激しい運動は難しい中、健康な体を維持できるように、昨年度から体力向上を目指して頑張っています。

H君・担当職員・ご家族・医師と相談しながら、最初は職員と一緒に、週一回30分の散歩に行くことから始め、その都度疲れ具合や体調について本人と職員で振り返りをしました。次に週一回30分の外遊び。それに慣れたら徒歩での学校への登校を実施。半年間続けましたが、体調不良の訴えもなく、なんと一日も休まずに取り組むことができました。最近では登校だけではなく、徒歩下校にも挑戦しています。

「ありがとう」を糧に



つつじ寮では、寮全体で日々の支援の中に“ほめる支援”を取り入れて4年目になります。職員にほめられることがうれしい子ども達は、自分から気付いてお手伝いをしてくれるようになりました。お友達がほめられている様子を見ると、自分もほめられたいという気持ちから、さらにお手伝い熱が高まるようです。

誰かのために自分ができることをやって、寮全体に「ありがとう」があふれる——そんなステキな瞬間がこれからも増えてほしいと思います。



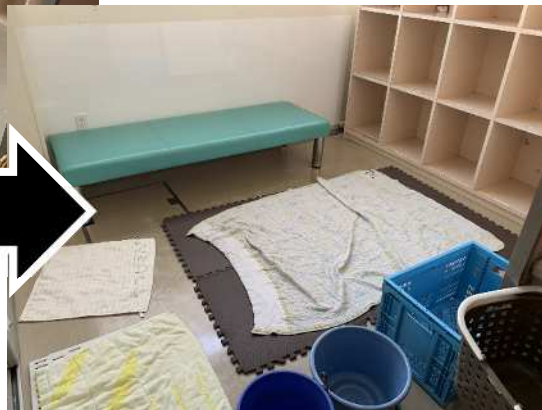
みんながお風呂に入る前に、毎日足ふき用のバスタオルを床に敷いたり、風呂桶をセットしたりしてくれます。すっかり作業に慣れていて、テキパキと取り組み、3分後には完了です。

短期入所の子どもがいる際は、「入浴は何時になりそうですか？私から寮の職員に伝えますよ！」と子どもから声をかけてくれています。

また、ふじやま学園でのお手伝いを続けた結果、自宅や学校でも、料理の片付けや洗面台のお掃除など、積極的に取り組めるようになったと、うれしい報告がありました。



3分後…

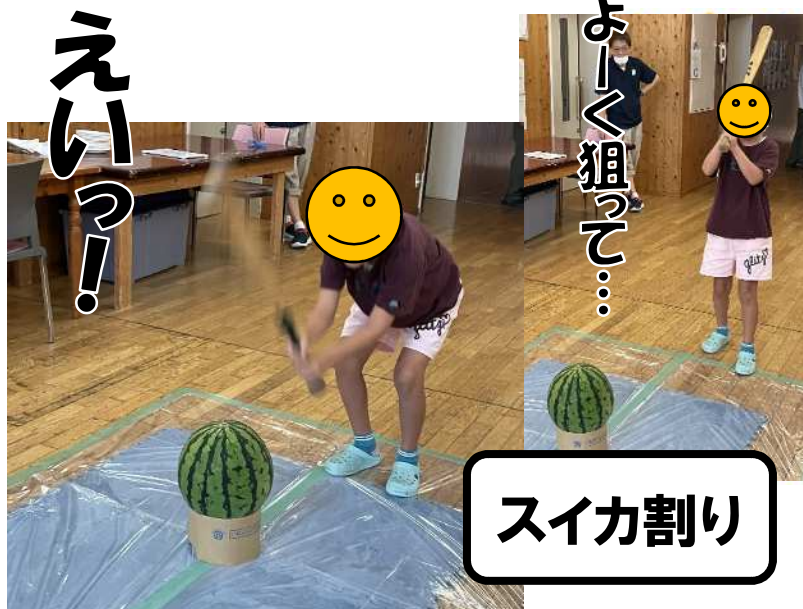


お友達の食事を毎食運んでくれます。お皿の数や食べ残しが多い時でも、こぼさないように上手に運んでくれます。食事を終わると片付けもしてくれます。

毎食続けるなんて凄いね！大変じゃないの？と聞いてみると、「全然！」と元気に答える背中は、非常にたのしいです。



夏休みの思い出



スイカ割り

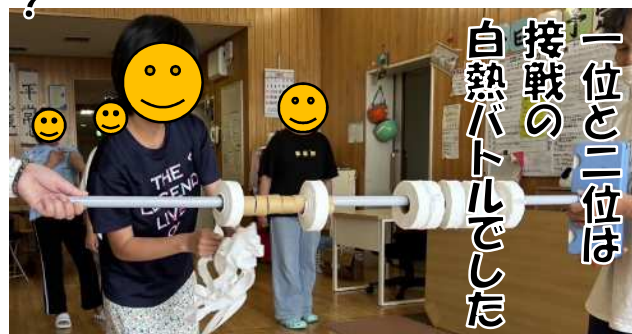
花火大会



かき氷会



パフェづくり



ペーパー巻き取り競争

